

■9月11日（日）午前

会場	講堂
	S2. 大規模災害のリスクマネージメントー東北地方太平洋沖地震に学ぶー 座長：藤本光一郎（1-4）、木村 眞（5-7）、天野一男（8-9）
9：00	9：00 はじめに、 日本地質学会会長 9：05 東北日本太平洋沖地震と今後の地震長期評価、 S2-O-1（招待） 島崎邦彦 9：35 大規模地震・火山災害と国際的リスク情報の共有、 S2-O-2 佃 栄吉 9：55 大規模自然災害と高レベル放射性廃棄物地層処分法のリスクマネージメント、 S2-O-3 高橋正樹・吉田英一 10：15 大規模災害による地すべり災害とリスクマネージメント、 S2-O-4（招待） 井口 隆 10：45 学校教育・市民教育における大規模災害リテラシー、 S2-O-5 紺谷吉弘 11：05 大規模災害とジャーナリズム、 S2-O-6（招待） 井上能行 11：35 総合討論。 11：55 おわりに、 日本鉱物科学会会長

人文10
R9. 変成岩とテクトニクス 座長：池田 剛（1-4）、佐藤 桂（5-8）、坂野靖行（9-12）
9：00 A Preliminary View of Metamorphic Rocks from Schwaner Mountains－West Kalimantan and Bantimala Complex－South Sulawesi, Indonesia. R9-O-1 セティアワン スグロホ・小山内康人・中野伸彦・足立達朗・米村和紘・吉本 紘・ワヒュディオノ ジョーコ 9：15 ベトナム縦貫造山帯に分布する苦鉄質変成岩類の地球化学的特徴、 R9-O-2 米村和紘・小山内康人・中野伸彦・大和田正明・馬場壮太郎 9：30 東南極リュツォホルム岩体の石灰珪質岩のトリウムとウランに富むスフェーンの記載岩石学的研究、 R9-O-3 佐藤 桂・Ellis David, J.・Christy Andrew, G.・廣井美邦 9：45 東南極リュツォ・ホルム岩体最高温度部の温度圧力流体履歴の再検討ー第52次南極地域観測隊調査報告ー、 R9-O-4 角替敏昭・Dunkley D.J.・宮本知治・加藤陸実 10：00 スリランカ中央部に産するチャーノッカイトの斜方輝石生成反応、 R9-O-5 山崎由貴子・池田 剛・本吉洋一・廣井美邦・ブレーム バーナード 10：15 ゴンドワナ大陸の先カンブリア時代花崗岩類・変成岩類ー山口大学における標本保存ー、 R9-O-6 加納 隆 10：30 Preiswerkite and hognomite occurrences within garnets in the Aktyuz eclogite, Northern Tien-Shan, Kyrgyzstan. R9-O-7 OROZBAEV Rustam・YOSHIDA Kenta・BAKIROV Apas・HIRAJIMA Takao・TAKASU Akira・SAKIEV Kadyrbek・TAGIRI Michio 10：45 連続反応によるざくろ石組成およびざくろ石-普通角閃石コロナの局所全岩組成の累帯構造、 R9-O-8 池田 剛 11：00 ケリファイトのテクトニクス（その2）：変成反応の体積変化、内部応力、物質移動の相互連関、 R9-O-9 小畑正明・清水以知子 11：15 接触変成岩への適用を通じて得られたラマン炭質物温度計の実用に関するいくつかの知見、 R9-O-10 青矢睦月・瀧瀬佑衣・遠藤俊祐・清水瞳・水上知行・中村大輔・ウォリス サイモン 11：30 炭質物の温度上昇に伴う構造変化とラマンピーク半値幅を用いた低温領域に適応可能な温度計の開発、 R9-O-11 瀧瀬佑衣・水上知行・青矢睦月・原 英俊・中村大輔・遠藤俊祐・ウォリス サイモン 11：45 炭質物ラマン分光分析を用いた、中央構造線近傍・三波川帯における剪断熱検出、 R9-O-12 森 宏・ウォリス サイモン・藤本光一郎・重松紀生

人文11
R2. 結晶構造・結晶化学・物性・結晶成長・応用鉱物 座長：三宅 亮・栗林貴弘（01-04）、永瀧真理子・吉朝 朗（05-08）、杉山和正・奥部真樹（09-12）
9：00 Mg(OD) ₂ の高温中性子回折実験、 R2-O1 永井隆哉・佐野亜沙美・飯塚理子・鍵 裕之 9：15 三宅島産灰長石巨晶に産するAl/Si完全無秩序型灰長石：Al-排除則のブレイクスルー、 R2-O2 越後拓也・星野美保子・木股三善・清水雅浩・松井智彰・西田憲正 9：30 足摺岬産のTiに富むferriallanite-(Ce) の結晶化学的研究、 R2-O3 永瀧真理子・今岡照喜・中島和夫 9：45 フィンランドOutokumpu産のCrとVに富む低結晶性クリノゾイサイトの結晶化学的研究、 R2-O4 永瀧真理子・Armbruster Thomas・Herwegh Marco・Pettke Thomas・Lahti Seppo・Grobety Bernard 10：00 合成メリライトの4配位席におけるFe ³⁺ の分布および変調構造の関係、 R2-O5 濱田麻希・赤坂正秀 10：15 クロム鉄鉱の四面体席を占有する2価鉄によるヤーン・テラー効果の圧力依存性、 R2-O6 興野 純・グラムシュ ステファン・山中高光・生田大穰・アハート ムッタ・ミセン ビョルン・マオ ホクォン・ヘムレー ラッセル 10：30 Charoite; the elaborate crystal structure determined in TEM. R2-O7 Toshihiro Kogure・Eiji Abe・V.A. Drits・I.V. Rozhdestvenskaya 10：45 斜長石のC-1⇔I-1相境界の再検討、 R2-O8 野本哲也・三宅 亮・下林典正 11：00 XAFS法によるK-T境界粘土層中の微量元素の局所構造解析、 R2-O9 奥部真樹・吉朝 朗・王 玲・仲谷友孝・中塚晃彦・宮脇律郎 11：15 PbTiO ₃ , BaTiO ₃ , SrTiO ₃ ペロブスカイトの相転移とXANESプレッジの温度変化、 R2-O10 仲谷友孝・平床竜矢・奥部真樹・武田隆史・村井啓一郎・吉朝 朗 11：30 K-cymriteの構造と特異な ²⁹ Si NMR特徴、 R2-O11 薛 献宇・神崎正美 11：45 蛍光・ラマンマッピング分析によるコランダム中の包有物周辺の残留応力成分の可視化、 R2-O12 野口直樹・阿依アヒマディ・小竹翔子・亀形菜々子・小松一生・鍵 裕之

※R1～R5, T1～T8は日本鉱物科学会扱いのセッション、S1～S3, R6～R25, T9～T20は日本地質学会扱いのシンポジウム・セッションです。講演番号は双方の学会の付け方に準じています。
※プログラムと講演要旨とで発表題目や共著者名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

■9月11日（日）午前

会場	人文13	人文14	人文15
	R3. 高圧科学・地球深部	T13. ジルコンとマルチクロノロジー	T6. 火成作用と流体
	座長：境 毅 (01-06), 梶谷 浩 (07-12)	座長：岩野英樹 (1-5), 折橋裕二 (6-9), 小笠原正継 (10-12)	座長：吉村俊平・栗谷 豪 (01-06), 奥村 聡・吉村俊平 (07-11)
9:00	9:00 R3-01 アルバニア, ミルディータオフィオライト西帯かんらん岩体の岩石学的特徴: 中央海嶺起源マントルか? 稲村征之・森下知晃・Milusi Ibrahim 9:15 R3-02 月隕石のα-PbO₂型シリカ及びスティショバイトのTEM観察. 宮原正明・金子詳平・大谷栄治・境 毅・長瀬敏郎・平尾直久 9:30 R3-03 TiO₂-ZrO₂系の高圧相関係とα-PbO₂型固溶体の形成. 赤荻正樹・堀内七海・梶谷 浩 9:45 R3-04 高温高圧条件下での炭酸塩鉱物の電気伝導度測定. 小野重明・三部賢治 10:00 R3-05 温度1100K, 圧力60GPaまでのフェロペリクレイスの準静水圧縮. 松井正典・伊藤英司・山崎大輔・芳野 極・Guo X.・Shan S.・岡本義広・肥後祐司・舟越賢一 10:15 R3-06 高圧ラマン測定によるカルシウムフェライト型MgAl₂O₄のグリーンアイゼン定数の決定. 梶谷 浩・赤荻正樹・トェベンス ダニエル 10:30 R3-07 Garnet中のSi-Al相互拡散と沈み込むスラブの密度進化. 西 真之・久保友明・大藤弘明・加藤 工・西原 遊・入船徹男 10:45 R3-08 マントル遷移層及び下部マントル上部におけるAlに富んだ相の含水量. 井上 徹・矢吹智美・坂本尚義 11:00 R3-09 下部マントルにおける鉄のスピン転移と構成相間の鉄の分配および相転移圧への影響. 藤野清志・浜根大輔・永井隆哉・瀬戸雄介・桑山靖弘・大藤弘明・新名 亨・入船徹男 11:15 R3-10 地球の内核の構造と物性. 大谷栄治・境 毅・鎌田誠司・福井宏之・バロン アルフレッド・平尾直久・大石泰生・瀬戸雄介 11:30 R3-11 (Fe,Ni)₃S相の安定性と圧縮挙動. 境 毅・大谷栄治・寺崎英紀・鎌田誠司・平尾直久 11:45 R3-12 Experimental determination of carbon isotope fractionation between iron carbide melt and carbon: ¹³C-enriched carbon in the Earth's core? M. Satish-Kumar・H. So・T. Yoshino・M. Kato・Y. Hiroi	9:00 T13-O-1 フィッション・トラック年代測定法の絶対年代校正. 檀原 徹 9:15 T13-O-2 LA-ICP-MS-FT年代測定: 応用例にみる利点と欠点. 長谷部徳子・田村明弘 9:30 T13-O-3 ジルコン (U-Th) /He法とマルチクロノロジー. 山田国見 9:45 T13-O-4 ジルコンフィッション・トラックのannealing kinetics. 山田隆二・田上高広 10:00 T13-O-5 同一ジルコン粒子のFTおよびU-Pb年代測定に関する評価. 岩野英樹・折橋裕二・平田岳史・檀原 徹 10:15 T13-O-6 SHRIMPを用いたジルコンU-Pb年代測定の現状. 堀江憲路 10:30 T13-O-7 東南極Howard Hillsの変成岩中の鉱物および山鹿地域はんれい岩体に産する珪長質変成岩中のジルコンのU-Pb年代 ~表面電離型質量分析計によるU-Pb分析の例~. 宮本知治 10:45 T13-O-8 ジルコン標準試料の意義とベトナム産単結晶ジルコン標準試料の準備. 小笠原正継・檀原 徹・福山蘭子・Hoang Nguyen・Lee Der-Chuen 11:00 T13-O-9 (招待) レーザーアブレーションICP質量分析法を用いたジルコンのU-Pb年代測定の現状と展望. 平田岳史・横山隆臣・牧 賢志・折橋裕二・岩野英樹・檀原有吾 11:15 T13-O-10 低温領域の熟年代学的手法に基いた木曾・赤石山脈の隆起・剝削史. 末岡 茂・Kohn B.P.・田上高広・堤 浩之・長谷部徳子・田村明弘・荒井章司・池田安隆・狩野謙一・山田国見・平田岳史 11:30 T13-O-11 極東ネパールヒマラヤ変成岩のジルコンの挙動とテクトニクス. 今山武志・竹下 徹・Yi Keewook 11:45 T13-O-12 ヒマラヤの変成岩ナップの前進と冷却のプロセス. 酒井治孝・檀原 徹・岩野英樹・折橋裕二・瀧上 豊	9:00 T6-01 Big Mantle Wedgeを通るスラブ由来流体の化学的探索. 山本順司・Kurz Mark・荒井章司・Prikhod'ko Vladimir 9:15 T6-02 放射光蛍光X線によるマグマと水流体の間の元素分配のその場観察: スラブ流体は塩水か? 川本竜彦・三部賢治・吉岡貴浩・黒岩健一・小木曾 哲 9:30 T6-03 マントル温度構造とアダカイト生成. 中村仁美・岩森 光 9:45 T6-04 還元性スラブ由来メルト: 南東スペイン, タヤンテ地域のかんらん岩捕獲岩の例. 清水洋平・荒井章司 10:00 T6-05 活動的火山における深部二酸化炭素の輸送現象の実態. 吉村俊平・中村美千彦 10:15 T6-06 斜長石-玄武岩質メルト間の水素の分配実験. 浜田盛久・潮田雅司・高橋栄一 10:30 T6-07 岩手火山・玄武岩質マグマの含水量. 栗谷 豪・吉田武義・木村純一・平原由香・高橋俊郎 10:45 T6-08 ソレライトマグマに由来するカルクアルカリ岩について—箱根火山を例にして—. 石井輝秋 11:00 T6-09 塩化カルシウム水溶液の熱容量の計算式について. 澁江靖弘 11:15 T6-10 珪長質マグマ内でのガス移動メカニズム: 脆性破壊に伴う亀裂形成のその場観察. 奥村 聡・中村美千彦・上杉健太郎・中野 司 11:30 T6-11 (招待) 火山ガスのCO₂/H₂O比と噴火ポテンシャルの関係. 大場 武

※R1~R5, T1~T8は日本鉱物科学会扱いのセッション。S1~S3, R6~R25, T9~T20は日本地質学会扱いのシンポジウム・セッションです。講演番号は双方の学会の付け方に準じています。
※プログラムと講演要旨とで発表題目や共著者名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

■9月11日（日）午前

会場	共通 1 大	共通32	共通33
	R4. 地球表層・環境・生命	R20. 古生物	R24. 地学教育・地学史
	座長：福士圭介（01-04），鈴木庸平（05-08），横山 正（09-12）	座長：石村豊穂（1-5），松原尚志（6-9）	座長：矢島道子（1-5），浅野俊雄（6-7）
9：00	9：00 R4-01 土岐花崗岩体における深部地下水中のコロイド物質の鉱物学的キャラクター化。 渡邊克晃・山本祐平・青才大介・水野崇・竹野直人・小暮敏博・鈴木庸平 9：15 R4-02 福島原発事故によるCs土壌汚染の環境鉱物学。 赤井純治・松下新・松本仁子 9：30 R4-03 地球生命圏を対象としたナノ鉱物学的研究—直接観察と理論の融合を目指した取り組み—。 鈴木庸平・渡邊克晃・小暮敏博・月村勝宏 9：45 R4-04 地球における衝突破砕岩における炭素・REE含有物質。 三浦保範 10：00 R4-05 モンゴルダルハド湖湖沼堆積物の鉱物組成に記録された水質変動。 瀧崎円香・阿部仁美・福士圭介・長谷部徳子・柏谷健二 10：15 R4-06 風化モデルによる大氷河期時代の大気酸素レベルの考察。 村上隆・菅崎良貴 10：30 R4-07 初期原生代の風化帯におけるFe分配予測風化モデル。 菅崎良貴・村上 隆 10：45 R4-08 砂岩の風化における化学的過程と物理的過程の相互作用。 横山 正 11：00 R4-09 AFMによる純水中でのbarite（001）表面の溶解その場観察。 桑原義博 11：15 R4-10 アコヤガイ幼生貝殻における炭酸カルシウム相について。 横尾直樹・鈴木道生・鍵 裕之・小暮敏博 11：30 R4-11 モノハイドロカルサイトの生成条件。 西山理沙・宗本隆志・福士圭介 11：45 R4-12 川崎ベントナイト鉱床における鉄ベントナイト相互作用の地球化学モデリング。 福士圭介・Marty Nicolas・Tournassat Christophe・Gaucher Eric	9：00 R20-O-1 美濃帯と北米テキサスのベルム紀腕足類フォナーの古生物地理学的類縁性。 田沢純一・沈 忠樹 9：15 R20-O-2 上部三畳系成羽層群の堆積環境と古植生復元。 湯川弘一・孫 革・鈴木茂之 9：30 R20-O-3 岡山県南西部，浪形地域に分布する「中新統」浪形層の貝類化石群。 松原尚志 9：45 R20-O-4 日本列島における鮮新—更新統長鼻類化石の時空間分布。 近藤洋一 10：00 R20-O-5 貝殻形状の理論形態空間における疑似連関。 生形貴男 10：15 R20-O-6 静的破砕剤（S—マイト）を用いた大型化石の採集。 平山 廉・河野重範・蘭田哲平 10：30 R20-O-7 紀伊半島四万十帯の古第三紀放散虫化石。 鈴木博之 10：45 R20-O-8 コケムシ炭酸塩殻は何を記録するのか？～コケムシ群体の定点観測と環境指標としての活用に向けた試み～。 石村豊穂・兼子尚知・町山栄章 11：00 R20-O-9 高分解能X線CTによる浮遊性有孔虫の三次元形態解析。 遠藤孝義・佐々木 理・長濱裕幸	9：00 R24-O-1 校地の立地条件を生かした環境・防災教育の試み。 紺谷吉弘 9：15 R24-O-2 兵庫県における地学教育の普及活動。 川勝和哉 9：30 R24-O-3 環境倫理を考える環境教育を目的としたジオトレイルの試み。 野井英明・太田泰弘・梅崎恵司 9：45 R24-O-4 地質学研究を普及するツールとしての「ジオラボ」の実施。 川端清司・石井陽子・塚腰 実・中条武司 10：00 R24-O-5 教科書「地球の形と大きさ」にみる地学教育の変遷。 浅野俊雄 10：15 R24-O-6 八重樫七兵衛と宮古の地学教育。 杉山了三・横田明広・小野寺弘幸 10：30 R24-O-7 日本の女性地球科学者の嚆矢。 矢島道子

※R1～R5，T1～T8は日本鉱物科学会扱いのセッション。S1～S3，R6～R25，T9～T20は日本地質学会扱いのシンポジウム・セッションです。講演番号は双方の学会の付け方に準じています。
※プログラムと講演要旨とで発表題目や共著者名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。

■9月11日（日）午前

会場	共通36	
	R18. 付加体	
	座長：辻 智大，鎌田祥仁（1-5）	
9：00	9：00	R18-O-1 尻屋崎地域のジュラ紀付加体における海山の衝突・崩壊による礫岩の形成過程。 木村 翔
	9：15	R18-O-2 四国高知市で掘削されたチャート・碎屑岩シーケンスの470mコア試料に認められる岩相と変形相。 大野佳緒里・木村克己・久田健一郎・康 義英
	9：30	R18-O-3 北部秩父帯におけるプレート内火成作用起源玄武岩類と遠洋性堆積岩の初生的関係。 辻 智大・榊原正幸
	9：45	R18-O-4 紀伊半島四万十帯付加体の海底扇状地堆積体。 中屋志津男・坂本隆彦
	10：00	R18-O-5 高知県南東部に位置する白亜系四万十帯に発達する断層帯の内部構造と透水性。 北村真奈美・向吉秀樹・廣瀬丈洋
	R16. 石油・石炭地質学と有機地球化学	
	座長：横井悟（1-3），加藤 進（4-6）	
	10：30	R16-O-1 三疊紀放散虫化石の発見に基づく千葉県北東部成東地域の基盤岩の同定とその特徴。 斎藤 真・川本友久
	10：45	R16-O-2 新庄盆地北西部に分布する草薙層・古口層の浮遊性有孔虫化石。 加藤 進・井上洋子・三輪美智子
	11：00	R16-O-3 Geochemistry of Papandayan and Cikuray Volcanoes：A Key to Reveal a Gondwana Continental Fragment beneath West Java, Indonesia and Its Implication for Hydrocarbon Exploration. Abdurrachman Mirzam・Masatsugu Yamamoto・Benyamin Sapiie

11：15	R16-O-4 関東地域の水溶性天然ガスに関する地質・地化学的研究。 佐脇貴幸・金子信行・前川竜男・猪狩俊一郎・棚橋 学・中嶋 健・森田澄人・坂田 将
11：30	R16-O-5 水溶性天然ガス鉱床の地質学的・地球化学的成立条件の検討。 金子信行
11：45	R16-O-6 日本における非在来型炭化水素資源。 横井 悟

共通 3 大	
T19. 関東平野の更新統層序とテクトニクス	
座長：中澤 努（1-3），水野清秀（4-6），鈴木毅彦（7-9），中里裕臣（10-12）	
9：00	T19-O-1 関東平野中・西部における反射法探査断面と第四紀の特定層との対比に基づく地質構造の推定。 水野清秀・山口和雄・伊藤 忍・納谷友規・松島絃子
9：15	T19-O-2 沖積層基底地形の分布・形状から推定される深谷断層系の浅部地下構造。 石原武志・須貝俊彦・水野清秀
9：30	T19-O-3（招待） 関東平野の更新統における地下水・溶存物質の挙動と層序・テクトニクスの統合的な理解に向けて。 林 武司・安原正也・網田和宏
9：45	T19-O-4 八潮GS-YS-2コアにみられる更新統下総層群の堆積サイクルとテフロクロノロジー。 坂田健太郎・中澤 努・中里裕臣
10：00	T19-O-5 関東平野中央部「大宮」「野田」地域における更新統下総層群の層序と地質構造：堆積盆沈降様式の地域差。 中澤 努・中里裕臣
10：15	T19-O-6 茨城県南部花室川低地にみられる最終氷期テフラ群。 中島 礼・大井信三・安藤寿男・吉田明弘・国府田良樹・工藤雄一郎・西本豊弘
10：30	T19-O-7 茨城県常陸台地における上部更新統木下層の再定義。 大井信三・横山芳春・安藤寿男
10：45	T19-O-8 下総層群地蔵堂層と藪層の浮遊性有孔虫多産層準。 野村正弘・金子 稔・石川博行
11：00	T19-O-9 茂原周辺の更新統上総層群笠森層のテフラ層序。 中里裕臣・七山太・佐藤弘幸
11：15	T19-O-10 房総半島南端地域千倉層に挟まれる海底地すべり起源のスランプ堆積層の特性。 岩本広志・安房団体研究グループ
11：30	T19-O-11 関東平野西縁の丘陵を構成する鮮新～更新統の古地磁気層序と関東平野の発達史。 植木岳雪
11：45	T19-O-12 栃木・福島地域に分布する塩原大田原テフラの層位と層相に基づく噴出過程の復元。 河合貴之・鈴木毅彦

■MEMO■

※R1～R5，T1～T8は日本鉱物科学会扱いのセッション。S1～S3，R6～R25，T9～T20は日本地質学会扱いのシンポジウム・セッションです。講演番号は双方の学会の付け方に準じています。
※プログラムと講演要旨とで発表題目や共著者名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。

■9月11日（日）午後

会場	人文10	人文11	人文13
	R9. 変成岩とテクトニクス	R2. 結晶構造・結晶化学・物性・結晶成長・応用鉱物	T2. 月の地質探査と地球物理探査：アポロからセレーネ2まで（共催：惑星科学会）
	座長：水上知行（13-16）、中村大輔（17-20）、遠藤俊祐（21-23）、青矢睦月（24-26）	座長：杉山和正・奥部真樹（13-14）、大藤弘明・長瀬敏郎（15-20）	座長：佐伯和人（01-06）
14：30	14：30 R9-O-13 夜久野オフィオライト待ちの山岩体蛇紋岩の微細構造発達。 小森直昭・道林克禎	R2-13 マグネサイトのカソードルミネッセンスにおける特異な試料温度効果。 西戸裕嗣・草野展弘・槇尾雅人・蛭川清隆	14：30 T2-01 SELENE-2における広帯域地震観測。 小林直樹・白石浩章・村上英記・竹内 希・岡元太郎・久家慶子・山田竜平・小川和津・鹿熊英昭・石原 靖・荒木英一郎・趙 大鵬・飯島祐一・川村太一・白井 慶・田中 智・早川雅彦・藤村彰夫・山田 功
	14：45 R9-O-14 大陸リフト帯におけるマントル構造発達過程：Kilbourne Holeかんらん岩捕獲岩の微細構造解析と地震波特性。 佐津川貴子・道林克禎・アンソニー エリザベス・スターン ロバート・ガオ ステファン・リュウ ケリー	R2-14 グラファイトからの六方晶ダイヤモンド直接変換合成と相転移メカニズム。 大藤弘明・竹内洋貴	14：45 T2-02 SELENE-2 ミッションで目指す月高地地殻探査の目的と観測機器。 大竹真紀子・大嶽久志・本田親寿・佐伯和人・杉原 孝・諸田智克
	15：00 R9-O-15 長崎変成岩の変成・堆積年代とその帰属。 堤 之恭・堀江憲路・宮下 敦・白石和行	R2-15 Goalparaユレイライト隕石中のn-diamond。 中牟田義博・藤 昇一	15：00 T2-03 レーザ絶縁破壊分光観測による月惑星表層物質の元素分析。 並木則行・石橋 高・荒井朋子・小林正規・千秋博紀・和田浩二・後藤和久・大野宗佑・松井孝典・長 勇一郎・杉田精司
	15：15 R9-O-16 三波川変成岩類の堆積から上昇まで。 宮下 敦・堤 之恭	R2-16 珪線石のムライト化中に観察される微細組織。 伊神洋平・三宅 亮・瀬戸雄介	15：15 TS-04 月隕石とかぐやデータからわかる月トロクトライト地殻の鉱物学。 荒井朋子・大竹真紀子・廣井孝弘・佐々木 晶・松井孝典
	15：30 R9-O-17 三波川帯エクロジヤイトのゆっくり沈み込みと浮力上昇。 遠藤俊祐・ウォリス サイモン・壺井基裕・青矢睦月・上原真一	15：30 R2-17 ケリファイトの微細構造、特にEBSDを用いた結晶方位関係の観察―その2：ざくろ石単斜輝岩の場合。 小畑正明・小澤一仁・吉田英人・上田匡将	15：30 T2-05 アポロ試料の主要元素組成に基づく宇宙風化度の定量。 太田 亨・Fagan Timothy・天野嘉春・長谷部信行
	15：45 R9-O-18 四国・別子地域三波川帯にエクロジヤイト変成作用の痕跡を探す。 榎並正樹・岡村充哉・櫻井 剛	15：45 R2-18 オストワルド段階則における安定相の形成。 牲川菜月・北村雅夫・下林典正・三宅 亮	15：45 T2-06 月面破碎岩に富む炭素・REE含有物質。 三浦保範
	16：00 R9-O-19 和歌山県飯盛地域の三波川変成岩から産する石英及び曹長石と共存するNa輝石―三波川帯の変成圧力の推定―。 坂野靖行・山田滋夫	16：00 R2-19 フラックス法によるアノーサイト結晶の育成（II）。 阿部利弥	
	16：15 R9-O-20 マントルウェッジの含水化と構造発達の岩石学的枠組み。 水上知行・平松良浩・荒井章司	16：15 R2-20 Sodaliteを出発物質としたシュウ酸含有cancriniteの合成。 越後拓也・山田裕久・田村堅志・鈴木 達	
	16：30 R9-O-21 ボヘミア岩体・超高压―超高温変成岩に保持されたザクロ石組成累帯構造。 中村大輔・下林典正・白杵 直・平島崇男・スフォック マルチン		
	16：45 R9-O-22 チェコ共和国・ボヘミア山塊に見出した火山岩様包有物の透過型電子顕微鏡観察。 三宅 亮・小林記之・廣井美邦・平島崇男		
	17：00 R9-O-23 グラニュライト中のザクロ石中の火山岩様包有物：大陸衝突型造山帯深部からの岩石の急速上昇・冷却の証拠。 廣井美邦・柳 綾彦・加藤睦美・小林記之・外田智千・本吉洋一・白石和行・石川正弘・サティッシュクマール M		
	17：15 R9-O-24 深成岩貫入岩体の周囲の応力場：接触変成面構造パターンの多様性。 増田俊明・松村太郎次郎・大森康智		
	17：30 R9-O-25 領家変成帯から見出される拡散クリープ―転位クリープ遷移とその条件。 宮崎智美・奥平敬元・篠田圭司・佐津川貴子・道林克禎		
	17：45 R9-O-26 山陽帯と領家帯のマグマ活動継続時間。 中島 隆		

※R1～R5，T1～T8は日本鉱物科学会扱いのセッション。S1～S3，R6～R25，T9～T20は日本地質学会扱いのシンポジウム・セッションです。講演番号は双方の学会の付け方に準じています。
※プログラムと講演要旨とで発表題目や共著者名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

■9月11日（日）午後

会場	人文14	共通1大	共通33
	R7. 岩石・鉱物・鉱床学一般	T12. 地球史イベント大事件6	R25. 第四紀地質
	座長：木村光佑（1-5）、曾田祐介（6-9）	座長：小宮 剛（1-3）、黒田潤一郎（4-7）、尾上哲治（8-10）	座長：廣瀬孝太郎（1-3）、嵯峨山 積（4-6）、瀬戸浩二（7-9）、内山 高（10-13）
14：30	14：30 R7-O-1 領家帯に産する高い帯磁率を示すアブライト、 星 博幸・太田貴子	14：30 T12-O-1 中新世モントレイイベント以降の寒冷期における海洋Os同位体変動、 伊藤 孝・黒田潤一郎・Ravizza Greg	14：30 R25-O-1 北海道に分布する赤色土－最終間氷期における赤色土の生成北限に関して－、 仲川隆夫
	14：45 R7-O-2 太古代變成BIFの化学組成構造、 勝田長貴・清水以知子・高野雅夫・川上紳一・Helmstaedt H. H.・熊澤峰夫	14：45 T12-O-2 層状チャートのオスミウム同位体記録からみた三疊紀－ジュラ紀境界の海洋環境変動、 黒田潤一郎・堀 利栄・鈴木勝彦・大河内直彦	14：45 R25-O-2 北海道石狩低地～長沼低地の第四系層序の検討、 嵯峨山 積・藤原与志樹・井島行夫・岡村 聡・山田悟郎・近藤 務・外崎徳二
	15：00 R7-O-3 ジルコンのSc/YおよびTh/U比の地質学的意味、 早坂康隆	15：00 T12-O-3 三疊紀新世における天体衝突と絶滅事変、 尾上哲治・佐藤峰南・中村智樹・野口高明・初川雄一・大澤崇人・小泉光生・藤 暢輔・海老原 充	15：00 R25-O-3 北海道網走湖に記録された過去350年間の環境変化、 瀬戸浩二・岡崎裕子・中島広海・香月興太・園田 武・川尻敏文・渡部貴聰
	15：15 R7-O-4 東南極リュツオホルム岩体西オングル島産ペグマタイトの磁鉄鉱巨晶中の包有物、 川畠智佑・濱田翔太	15：15 T12-O-4 ニュージーランド北島アローロックスにおける古生代／中生代直後の放散虫群集の変遷、 竹村厚司・小森はる奈・山北 聡・鎌田祥仁・相田吉昭・堀 利栄・高橋 聡・池田昌之・スボーリ パーナード・キャンベル ハイミッシュ	15：15 R25-O-4 富士五湖の形成史、 内山 高・興水達司
	15：30 R7-O-5 未分化玄武岩と極端に分化した玄武岩、 伊集院 勇・石渡 明	15：30 T12-O-5 スヴァールバル諸島の後期原生代の地層に保存された表層環境変動、 澤木佑介・田畑美幸・吉屋一美・西澤 学・小宮 剛・丸山茂徳・平田岳史	15：30 R25-O-5 瀬戸内海における近過去の珪藻群集変化と人為的環境改変の関係、 廣瀬孝太郎・吉岡 薫・佐古恵美・入月俊明
	15：45 R7-O-6 男鹿半島第四紀火山岩と一の目潟下部地殻捕獲岩の成因関係、 山元正継・近藤 梓・丸山孝彦・加々美寛雄	15：45 T12-O-6 西ビルバラ、太古代中期のクリバービル地域に見られる横ずれ堆積盆の形成時期の推定、 竹原真美・清川昌一・堀江憲路・伊藤 孝・池原 実・山口耕生・坂本 亮・永田知研・相原悠平	15：45 R25-O-6 瀬戸内海児島湾における最近の底生有孔虫群集の変化、 辻本彰・野村律夫・福田賢一・河野重範
	16：00 R7-O-7 東北地方中央部の小規模超苦鉄質岩体中に見られるクロムスピネル、 町田伶史・石渡 明	16：00 T12-O-7 太古代中期／原生代初期の海底堆積層序比較、 清川昌一・伊藤 孝・池原 実・山口耕生・坂本 亮・竹原真美・寺司周平	16：00 R25-O-7 奄美大島住用湾和瀬サンゴ礁における土石流災害後の変化、 秋元和實・矢北孝一・外村隆臣・竹内俊英・柴田成晴・中野浩一・吉津 憲
	16：15 R7-O-8 オマーンオフィオライト・フィズ岩体のマントルセクションに分布する二種類のダナイトについて、 末武杏奈・高澤栄一	16：15 T12-O-8 地球史を通じた大気海洋CO ₂ 濃度変化、 渋谷岳造・小宮 剛・高井 研・丸山茂徳	16：15 R25-O-8 大阪平野北東部におけるアズキ火山灰の発見とその意義、 末廣匡基・横田 裕
	16：30 R7-O-9 オマーンオフィオライト北部・ヒルチ岩体の鉱物組成分布からみた海洋リソスフェアマントルの変遷、 高澤栄一・春日良一・山野井陽一	16：30 T12-O-9（招待） 火星・タイタンの表層環境大変動イベントと地球環境進化への示唆、 関根康人	16：30 R25-O-9 鹿沼土及びその上位層の有する重金属吸着能力の検討 その2、 宮田昌幸・齊藤真喜・北瀬（村上）晶子・香村一夫
		16：45 T12-O-10 スーパーアースとプレートテクトニクス、 小宮 剛	16：45 R25-O-10 底質土壌中の球状炭化粒子と重金属元素から見た東アジア地域の越境汚染史の検討、 佐藤亮介・前田篤志・北瀬晶子・香村一夫・吉川周作・山崎秀夫・林 在洙・金 周龍・YANG Dong-Yoon
			17：00 R25-O-11 東南極・高塩分塩湖すりばち池に記録された後期完新世の古環境と古気候変動、 中島広海・瀬戸浩二・香月興太・金子 亮・山田和芳・伊村 智
			17：15 R25-O-12 最終間氷期における北西太平洋の鉛直水塊変動、 安富友樹人・本山 功・安間 了・大場忠道・池原 実・板木拓也
			17：30 R25-O-13 東南極セール・ロンダーネ山地における更新世以降の氷床変動史の復元、 菅沼悠介・三浦英樹・Zondervan Albert

※R1～R5，T1～T8は日本鉱物科学会扱いのセッション。S1～S3，R6～R25，T9～T20は日本地質学会扱いのシンポジウム・セッションです。講演番号は双方の学会の付け方に準じています。
※プログラムと講演要旨とで発表題目が共著者名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

■9月11日（日）午後

会場	共通36
	R14. 炭酸塩岩の起源と地球環境
	座長：山田 努（1-4），中森 亨（5-8），比嘉啓一郎（9-12）
14：30	14：30 R14-O-1 南中国と北中国地塊のカンブリア紀からオルドビス紀前期にみられる礁の変遷と特異性－海洋環境の地球生物学的な洞察－. 江崎洋一・劉 建波・足立奈津子・小谷綾香
	14：45 R14-O-2 ミシシッピ／ペンシルバニア亜紀境界の海洋古環境と秋吉石灰岩の発達過程. 比嘉啓一郎・秋山哲男・村上達郎
	15：00 R14-O-3 秋吉石灰岩中部ペルム系の海綿－被覆性微生物群集：パンサラッサ海洋島上での礁進化のなかでの位置づけ. 中澤 努・上野勝美・川幡穂高・藤川将之
	15：15 R14-O-4 ボリビア産白亜紀ストロマトライトの地球化学的分析による成因考察. 山梨純平・中森 亨・山根広大
	15：30 R14-O-5 ストロマトライトの実験古生物学的研究. 白石史人
	15：45 R14-O-6 メタン湧水性石灰岩の岩石組織から湧水挙動を復元する試み－長野県の中部中新統別所層を例に－. 延原尊美・大捕由貴
	16：00 R14-O-7 久慈市内間木洞の石筍による東北地方北東部の古気候復元. 加藤大和・山田 努・富塚昌宏・菊地敏雄・岡本 透・松田博貴・吉村和久
	16：15 R14-O-8 龍神窟（宮城県気仙沼市）における鍾乳石形成環境とその季節変化. 山田 努・富塚昌宏・加藤大和・松田博貴・菊地敏雄・栗崎弘輔・吉村和久
	16：30 R14-O-9 トラバーチンに見られる弱酸性環境での酸素同位体分別. 狩野彰宏・奥村知世
	16：45 R14-O-10 方解石と水溶液間での希土類元素分配に関する実験的研究. 外山浩太郎・寺門靖高
	17：00 R14-O-11 鹿児島県トカラ列島小宝島東方沖陸棚上での礁岩の発見とその意義. 松田博貴・荒井晃作・井上卓彦・町山栄章・吉津 憲・三納正美・堺 理紗子・佐々木圭一・井龍康文・中森 亨・山田 努・藤田和彦・杉原 薫
	17：15 R14-O-12 造礁サンゴ骨格の三次元分布. 中森 亨・佐々木 理

共通 3 大
R17. 岩石・鉱物の破壊と変形
座長：奥平敬元（1-4），武藤 潤（5-9）
14：30 R17-O-1 断層欠陥場と応力関数曲面の曲率. 山崎和仁・谷島尚宏・岩山隆寛
14：45 R17-O-2 異方性媒質中の地震波線とフィンスラー幾何学. 長濱裕幸・谷島尚宏・山崎和仁
15：00 R17-O-3 ピンオンディスク摩擦試験による石英非晶質化. 中村 悠・武藤潤・長濱裕幸・三浦 崇・荒川一郎
15：15 R17-O-4 石英の粉碎粒子の形態・結晶化度・溶解熱に関する新知見とその展望. 滝沢 茂・西川 治・武藤 潤・小澤佳奈・大槻憲四郎・清水雅浩
15：30 R17-O-5 高温高間隙水圧下での蛇紋岩のすべり特性. 岡崎啓史・片山郁夫・高橋美紀
15：45 R17-O-6 中央構造線を貫くボーリングコアの脆性小断層における鉱物組成の統計解析. 田中伸明・藤本光一郎・重松紀生
16：00 R17-O-7 中央構造線を貫く連続コアによる断層帯内部構造解析と内陸地震. 藤本光一郎・田中伸明・重松紀生・森 宏・ウォリス サイモン
16：15 R17-O-8 領家変成帯における歪みの局在化. 奥平敬元・重松紀生
16：30 R17-O-9 鳥取県西部地域における低活動性活断層の断層岩解析. 窪島光志・小林健太

■MEMO■

※R1～R5，T1～T8は日本鉱物科学会扱いのセッション。S1～S3，R6～R25，T9～T20は日本地質学会扱いのシンポジウム・セッションです。講演番号は双方の学会の付け方に準じています。
※プログラムと講演要旨とで発表題目や共著者名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。